

2026年 9 月11日

逗 子 市

「海辺の自然再生・高校生サミット 2026 in よこすか」の 開催について

全国各地で海辺の自然再生に取り組む高校生が横須賀に集い、日頃の活動や研究成果を発表し、意見交換を行うサミットを開催します。神奈川県からは、県立海洋科学高等学校が参加します。

アマモ場は、小魚の隠れ家やエサ場となることから「海のゆりかご」とも呼ばれ、豊かな海の環境を支える大切な存在です。本サミットでは、高校生たちがアマモ場をはじめとする海辺の自然再生について学び、各地での取り組みや研究成果を発表します。

入場は無料です。高校生たちの熱意あふれる発表を、ぜひご覧ください。

なお、本件は三浦半島4市1町（横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町）で同時発表しており、三浦半島ブルーカーボン推進会議が後援しています。

【開催概要】

1 期間

令和8年（2026年）9月21日（月・祝日）～22日（火・祝日）

2 場所

公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学（横須賀市平成町1丁目10-1）

3 観覧

無料

4 内容

高校生による活動成果等の発表

全国18校の高校が日頃の研究や活動成果を発表します。

（参加校や各日の詳細は、「海辺の自然再生・高校生サミット」ウェブサイトまたは参考資料をご覧ください。）

5 主催

NPO法人海辺つくり研究会

6 協賛

一般財団法人セブン-イレブン記念財団、東京海上日動火災保険株式会社、Umios株式会社、東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」、株式会社商船三井、東洋建設株式会社、日本製鉄株式会社、株式会社明電舎、パナソニックホールディングス株式会社、株式会社日

本港湾コンサルタント、日本テレビ放送網株式会社

7 後援

三浦半島ブルーカーボン推進会議（横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町）

8 協力

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所、ジャパンプル
ーエコノミー技術研究組合

9 参考資料

パンフレット

本件に関するお問い合わせ先：

環境都市部環境都市課 三澤・金子

電話：046-873-1111 内線 456

海辺の自然再生・高校生サミット 2026 in よこすか

9/21(月祝)

プログラム

9/22(火祝)

9:00 開会式

9:25

[基調講演]

流澤壽一氏 (元NPO法人共済の森ネットワーク理事長)
「人は自然の一部である」
～人と自然との共生とは～

10:05 休憩

10:15

高校生発表

樹さんが21日の高校生発表の
モデレーターを務めます

- ・①②(2校) + 質疑応答・コメント
- ・③④(2校) + 質疑応答・コメント
- ・⑤⑥(2校) + 質疑応答・コメント

12:00 休憩

13:00

高校生発表

- ・⑦⑧(2校) + 質疑応答・コメント
- ・⑨⑩(2校) + 質疑応答・コメント
- ・⑪⑫(2校) + 質疑応答・コメント

14:45 休憩

14:55

高校生発表

- ・⑬⑭(2校) + 質疑応答・コメント
- ・⑮⑯(2校) + 質疑応答・コメント

16:05 講評

16:20 協力企業・団体の活動紹介

16:35 メイン会場プログラム終了

16:40 (別会場) ポスターセッション

17:40 終了

9:00 2日目オープニング

9:15

[特別講演] サバ缶を生徒と打ち上げた先生 小坂康之氏
「実はアマモがあってこそ、
サバ缶が宇宙に飛んだんです」

9:55 休憩

10:00

高校生発表

- ・⑰⑱(2校) + 質疑応答・コメント・講評

10:40 休憩

10:50

ポスターセッション、プレ分科会

11:50 休憩

12:40

分科会 複数のテーマに分かれ、高校生同士で
研究の悩みや解決策を話し合います

14:20 休憩

14:30

高校生円卓会議

分科会の話合いをもとに、全員でさらに考えを深めます

15:30 講評

15:40 協力企業・団体の活動紹介

15:55 閉会式

16:00 終了

高校生サミット発表団体

[北海道・東北エリア] 北海道小樽水産高等学校 / 山形県立加茂水産高等学校 / 宮城県水産高等学校 [関東・中部エリア] 東京都立芝商業高等学校 / 千葉県立安房高等学校 / 神奈川県立海洋科学高等学校 [近畿・中国・四国エリア] 福井県立若狭高等学校 / 関西大学北陽高等学校 / 岡山学芸館高等学校 / 柳井学園高等学校 / 愛媛県立宇和島水産高等学校 [九州エリア] 福岡工業大学附属城東高等学校 / 福岡県立山門高等学校 / 福岡県立新宮高等学校 / 熊本県立芦北高等学校 / エコユースやつしろ / 熊本県立天草高等学校 / 鹿児島県立鹿児島水産高等学校

※当日の顔写真は後日配信予定です

活動アドバイザー

古川 恵太 ふるかわ・けいた
NPO法人海辺つくり研究会 理事長

1963年生まれ。早稲田大学大学院建設工学修士。運輸省港湾技術研究所(現・国土交通省国土技術政策総合研究所)、海洋政策研究財団(現・笹川平和財団海洋政策研究所)を経て、2019年よりNPO法人海辺つくり研究会理事長。徳島大学客員教授。専門は沿岸生態系の保全・再生・創出、沿岸域総合管理、市民科学の推進等。

木村 尚 きむら・たかし
NPO法人海辺つくり研究会 理事・事務局長

1956年生まれ。東海大学海洋学部卒業。NPO法人海辺つくり研究会理事・事務局長の他、東京湾を子どもたちが泳げる豊かで美しい海にしたいと考え、東京湾の環境やまちづくりに関連する多数の市民活動にも協力している。主な著書は『都会の里海・東京湾』、『森里川海をつなぐ自然再生』(共著)等。現在、日本テレビ系列「ザ! 鉄腕! DASH!!」-DASH 海岸-にレギュラー出演中。

岩井 克巳 いわい・かつみ

NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事
1965年生まれ。東海大学海洋学部卒業。(株)MACS代表取締役。阪南市を中心とした大阪府南部の泉州地域で、アマモ場再生を核とした海洋教育、カキ小屋を核とした浜の活力再生を指導・実践。NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事の他、大阪湾見守りネット理事、NPO法人海辺つくり研究会監事を務める。

活動アドバイザー



木村 尚
NPO法人海辺つくり研究会
理事・事務局長



古川 恵太
NPO法人海辺つくり研究会
理事長



岩井 克巳
NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター
専務理事

モデレーター



樹 太一
同志社大学ハリス理化学研究所 助教

主催：NPO法人海辺つくり研究会

[協賛] 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 東京海上日動火災保険株式会社 Umios 株式会社
東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」 株式会社商船三井 東洋建設株式会社 日本製鉄株式会社 株式会社明電舎
パナソニックホールディングス株式会社 株式会社日本港湾コンサルタント 日本テレビ放送網株式会社
[後援] 三浦半島ブルーカーボン推進会議 (横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町)
[協力] 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

参加申し込みフォームよりお申し込みください <https://forms.gle/2EdFw4BrFU3JugDq6>



【お問合わせ】 NPO法人 海辺つくり研究会

神奈川県横浜市西区平沼 2-4-22 ジュネスササキ 202号
電話：045-321-8601 e-mail: amamo.summit.hss@gmail.com

「海辺の自然再生・高校生サミット」ウェブサイト
<https://amamo-summit.net/>

高校生サミット発表団体の紹介

北海道・東北

北海道小樽水産高等学校



私たち海洋漁業科は、北海道の日本海側にある小樽市で、小樽水産高校のある小樽港周辺の藻場とスガモ（アマモ）調査活動を行いました。小型船舶からの目視やカメラ、スクーバダイビング等のマリンスポーツ活動の他、空中および水中ドローンを活用した調査の報告をします。

山形県立加茂水産高等学校



本校は山形県の漁業者と協力し、藻場の保全活動に取り組んでいます。写真は、山形県水産技術振興センターの研究員から、ガラ藻場を形成する海藻の種類について講義を受けている様子です。私たちは、中でも継続してアカモクに着目し、企業と連携して食害を受けにくい増殖方法の研究を進めています。

宮城県水産高等学校



本校は宮城県東部中央に位置する牡鹿半島の付け根にある水産高校です。学校近くの実習場前には太平洋と狭い水路でつながっている「万石浦」という内湾があります。この万石浦を中心に3年生が課題研究班に分かれて「アマモ」の生息調査など様々な課題解決に向けて取り組んでいます。本年度は若干のアマモが確認できたので、それらを何とか増殖させようとしています。また、例年通り海藻を肥料とした畑も展開しています。※写真は実習場前で「アマモ」を増やそうと海藻から作った「フルボ酸鉄」入りの袋を設置しているところです。

関東

東京都立芝商業高等学校



こんにちは。東京都立芝商業高等学校ひがた部です。本校は東京都港区にあります。私たちは、学校近くの複合施設ウォーターズ竹芝にある人工の干潟「竹芝干潟」の保全と発展、魅力発信のためにできることを企画立案し、活動をしています。商業高校ビジネス科の学習を活かし、様々な角度から商業高校生ならではのアプローチを行っています。

千葉県立安房高等学校



館山、木更津、館南…。この数年で東京湾から次々とアマモが姿を消しつつあります。海辺の生態系の土台としても、温室効果ガスの吸収源としても貴重なアマモ。地域固有の遺伝子を守る域外保全のための栽培方法の確立は急務となりました。私たちは様々な人々と一緒に、今の私たちにできることに一杯取り組んでいます。

神奈川県立海洋科学高等学校



水産資源研究会アマモグループでは、小田和湾内の「佐島」と「井尻」という場所でアマモ場再生を目指し植栽をしています。井尻は、湾内唯一コアマモが繁茂している場所です。このコアマモが、自然アイゴ避けネットになるのではと考え、植栽を試みました。井尻での約3年間の活動報告をします。私たちの試行錯誤した結果をぜひ聞いてください。

近畿・中国・四国

福井県立若狭高等学校



本校は、地域資源を活かした探究活動を通じて、課題設定力や科学的思考力を育成します。4学科体制により多様な進路実現が可能で、地域や大学と連携した先進的な学びが魅力です。探究を通して、私たちは小浜市の漁獲量が減少しているのは、アマモの減少が関係していると考えました。アマモをより強く、発芽しやすくなるようにアマモの発芽率向上と成長の促進をテーマに探究をしています。

関西大学北陽高等学校



本校は、豊かな海を未来へつなぐために「私たちにできること」を探究しています。本年度も、その中の一つ北陽高校オリジナル！海の問題を「自分ごと」にできる「umiのカードゲーム」について発表します。

岡山学芸館高等学校



医進サイエンスコースでは、里海の聖地と呼ばれる岡山県備前市日生町で、2017年から海洋学習に取り組んでいます。1年次にアマモ場再生活動と聞き書きを、2年次には牡蠣の養殖体験や課題研究を行っています。今年は、アマモ種子にプラズマ照射をさせて発芽率を向上させる、漂着したアマモの食用利用など様々な研究を行っています。

柳井学園高等学校



魚離れが進む中、地魚の魅力を伝えるため、本校では2008年から漁協青壮年部と連携して、魚料理教室を実施しています。生徒が指導を受けながら、魚を自分で捌いて調理する体験を通じて、今まで何気なく食べていた魚料理について、伝統や文化への意識を高めています。地元のアマモ場の現状や課題の理解を深め、私たちができることを考え、実行していきたいと思います。

愛媛県立宇和島水産高等学校



本校では、「水産増殖研究部」が中心となり藻場保全活動を3年前より取り組んでおります。昨年度は、クロメの保全活動について紹介しました。今年度は海草類（アマモ類・ヤマトウミヒルモ）の保全啓発活動及び昨年度のサミットで出会った他団体様との交流について紹介します。

福岡工業大学附属城東高等学校



私たちは、博多湾の自然をもっと豊かに！をモットーに、博多湾内の生き物を調査し、結果をまとめ図鑑化する活動をしています。さらにアマモ場やアサリなどの資源の再生を目指したり、海のもの活用を行ったりしています。その活動をサイエンス系のイベントで紹介し、小学生や地域の方々などに広く伝える活動をしています。

九州

福岡県立山門高等学校



私たちは2014年にニホンウナギが国際自然保護連合から絶滅危惧種に指定されたことを機にニホンウナギの絶滅を回避するために、特別採捕と標識放流、飼育中の生態実験を行っています。ウナギ水槽にクスノキ落葉を投入したことで水替え無しでも感染症に罹らなくなり死亡率が低下したので、現在までに日本全国のウナギがつかえて生息していた場所に約14000個体放流しました。また、腐植質のフルボ酸をウナギ水槽に投入すると感染症の原因菌の増殖を抑えられることが分かりました。魚類養殖の現場でも森の恵みが貢献できる可能性があります。

福岡県立新宮高等学校



新宮高校は、昨年創立50周年を迎え「光る吾が身を勤として明日の世界を耕さん」というスローガンを掲げ、日々の活動に励んでいます。理数科があり、大学などと連携し探究活動が充実しています。私たちは新宮浜のデータホルダーになることを目指し5年前から継続的に研究を続けており、砂浜の測量や漂着物の採集などに取り組んでいます。

熊本県立芦北高等学校



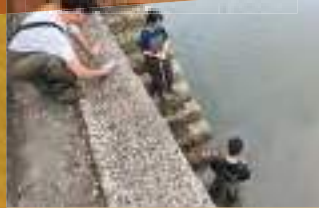
私たちのアマモ場再生活動は、今年で24年目を迎えます。これまで多くのアマモ場造成技術を考案し、毎年、5月～7月に種子散布、12月～3月に苗の移植に取り組んでいます。昨年3月には、熊本県初となるフルクレジツ131tを取得しました。また、現在はコアマモの造成研究にも取り組んでいます。

エコユースやつしろ



「エコユースやつしろ」は、2021年7月に「次世代のためにがんばろう会」を母体に設立。浜辺の清掃や不法投棄の視察などを行い、2025年3月に愛称が決まった「生き物湧り」（球磨川河口干潟）で、毎月「いきもの調査」を実施し、54種の希少種を確認。市民参加を促し、八代海の再生にも力を注いでいます。

熊本県立天草高等学校



天草高校科学部では数年前からアマモの研究を継続しています。アマモの発芽率や成長など様々な研究テーマで研究を続けてきました。現在は天草市の課題である赤潮による被害を減らすべく、様々な環境下でアマモが生息できるかを調べています。また天草市と連携し、天草周辺のアマモ場についての調査も行っています。

鹿児島県立鹿児島水産高校



私たち鹿児島水産高校は、令和4年度から産官学で連携しアマモ場再生活動を行っています。育てたアマモを海に移植するのももちろんのこと、飼育条件について様々な実験を行ってきました。また、昨年度からは飼育実験だけでなく、近隣の学校と一緒にアマモ飼育を行う、本校での取組について説明する等、藻場再生を広める活動にも力を入れています！